

高齢者の運転免許返納に対する意識と要因に関する基礎的研究

呉工業高等専門学校 正会員 ○山岡 俊一
 豊田工業高等専門学校 正会員 野田 宏治
 (株) キクテック 正会員 荻野 弘

1. 研究背景および目的

高齢運転者による交通事故を防止する目的で1998年に運転免許返納制度が始まった。超高齢社会と言われる今、高齢運転者による原付以上運転者（第1当事者）による交通事故件数は増加している。この問題に対して各地方行政は、交通機関の運賃割引や協賛店による割引等のサービスなど様々な免許証自主返納支援を行っている。しかし、運転免許返納者は65歳以上の運転免許保有者の1%にも達していない。そのため、様々な視点から運転免許返納制度について再検討する必要がある。そこで本研究では、愛知県豊田市の高齢者を対象にしたアンケート調査により、運転免許返納に対する意識と要因を生活環境と関連付けて明らかにする。

2. アンケート調査の概要

表-1に本研究で行ったアンケート調査の概要を示す。アンケートの対象は豊田市内240の老人クラブに所属している高齢者とし、その中から7地区24クラブを抽出した。調査地区は公共交通満足度¹⁾、バスの本数²⁾、高齢者による事故率³⁾の違いを考慮し、対象クラブは各地区の男性の多い順に2クラブずつ(崇化館地区のみ全12クラブ)とした。

3. 運転免許返納制度の認知度

ここでは、運転免許返納制度について、図-1に運転免許返納制度の認知度、運転免許返納の仕方の認知度、運転経歴証明書の交付の認知度を示す。運転免許返納制度の認知度では、「知らない」と答えた人は7%であり、制度の存在自体は多くの人を知っていることが分かった。しかし、返納の仕方を「知らない」と答えた人は41%、運転経歴証明書の交付については66%の人が「知らない」と答えた。運転経歴証明書は運転免許を返納した場合に申請することによって交付され、身分証明書となる。しかし、図-2に示すように運転免許を返納した場合に身分証明書がなくなることで24%の人が「とても困る」、21%の人が「少し困る」と答えている。そのため、運転経歴証明書を申請により交付されること知ってもらうことが課題であると考えられる。また、すべてに項目を「詳しく知っている」、または、「知っている」と答えた人はわずか8%であった。

表-1 アンケート調査の概要

調査対象	豊田市の老人クラブに所属する者
調査地区	稲武 崇化館 梅坪台 竜神 末野原 藤岡 下山
調査クラブ数	24クラブ
調査期間	平成25年12月11日～19日
配布、回収方法	老人クラブ会長から会員へ配布、郵送
配布数	2769部
回収数、回収率	1152部、41.6%
調査項目	個人属性 公共交通機関 交通手段 免許返納制度の評価 返納後の生活等

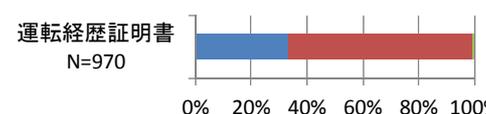
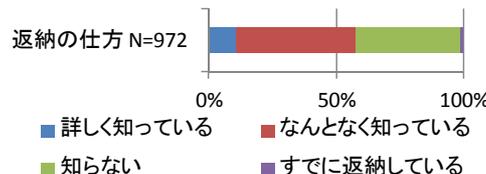
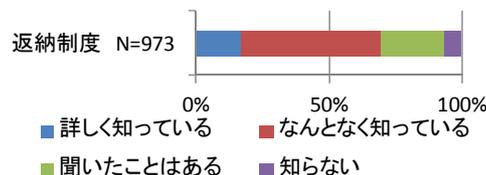


図-1 運転免許返納制度の認知度

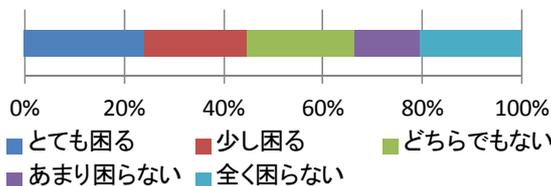
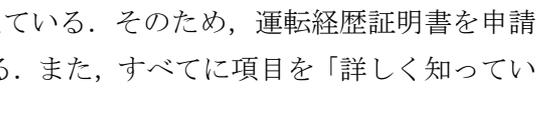


図-2 運転免許を返納したら身分証がなくて困る



キーワード 運転免許返納, 高齢者, 意識調査分析

連絡先 〒737-8506 広島県呉市阿賀南2-2-11 呉工業高等専門学校 環境都市工学分野

TEL&FAX 0823-73-8482 E-mail yamaoka@kure-nct.ac.jp

4. 運転免許返納の要因と意識構造

4. 1 運転免許返納意識の分類

本研究では免許返納制度の活用についての意識を、「近い将来返納したい人」「返納したいが、現在の生活環境では免許の返納は難しい人（以下、生活環境の向上で返納したい人）」「返納する気のない人」に分類した。また、運転免許の返納の要因を明らかにするために、分類別に返納後困ること、求めるサービスを分析した。

4. 2 運転免許返納意識別の返納後困ること

図-3 に運転免許返納意識別の返納後に困ることの上位 10 項目を示す。運転免許返納意識に関係なく、「思い通りに外出できないこと」、「病院に行けないこと」、「買い物に行けないこと」が困ると 80%以上の人々が答えた。また、近い将来返納したい人は、「タクシーに頼らなければならず、お金がかかること」に困る人が多いと考えられる。生活環境の向上で返納したい人は返納する気のない人より「思い通りに外出できないこと」以外、困ると答えた人の割合が多い。特に、「駅やバス停まで遠いこと」に 66%の人が困ると答えている。このことから、運転免許返納制度の利用増進には病院や買い物の手段の確保だけではなく、公共交通機関の充実も重要となる。

4. 3 運転免許返納意識別の求める割引等のサービス

図-4 に運転免許返納意識別の求めるサービスの上位 7 項目を示す。免許返納の意識に関係なく、80%近くの人々が「公共交通機関の割引」を、60%近くの人々が「タクシーの割引」を求めていることが分かる。このことから、免許返納者へのサービスとして、自動車の代わりとなる移動手段に対しての割引を求めていることが分かった。

5. まとめ

本研究で得られた知見を以下に列挙する。

- ・運転免許返納制度は 90%以上の人々が存在を知っているが、運転経歴証明書が交付されることを知っている人は 30%である。
- ・運転免許を返納した際に困ることは思い通りに外出できないこと、病院・買い物に行けないことである。
- ・近い将来返納したい人はタクシーにお金がかかること、生活環境の向上で返納したい人は駅やバス停が遠いことが困ると考えている。
- ・運転免許返納者へのサービスとして、自動車の代わりとなる移動手段に対しての割引を求めている。

以上より、今後は制度の内容についての広報や、病院・買い物へ行く手段として、公共交通機関の充実や割引のサービスを増やすことにより、運転免許を返納しようとする人が増加すると考えられる。

【参考文献】

- 1) 豊田市企画課：豊田市市民意識調査（第 19 回），2011
- 2) 豊田市交通政策課：豊田市バスガイドブック Vol1, 2013
- 3) 愛知県警察：交通事故データ，2012

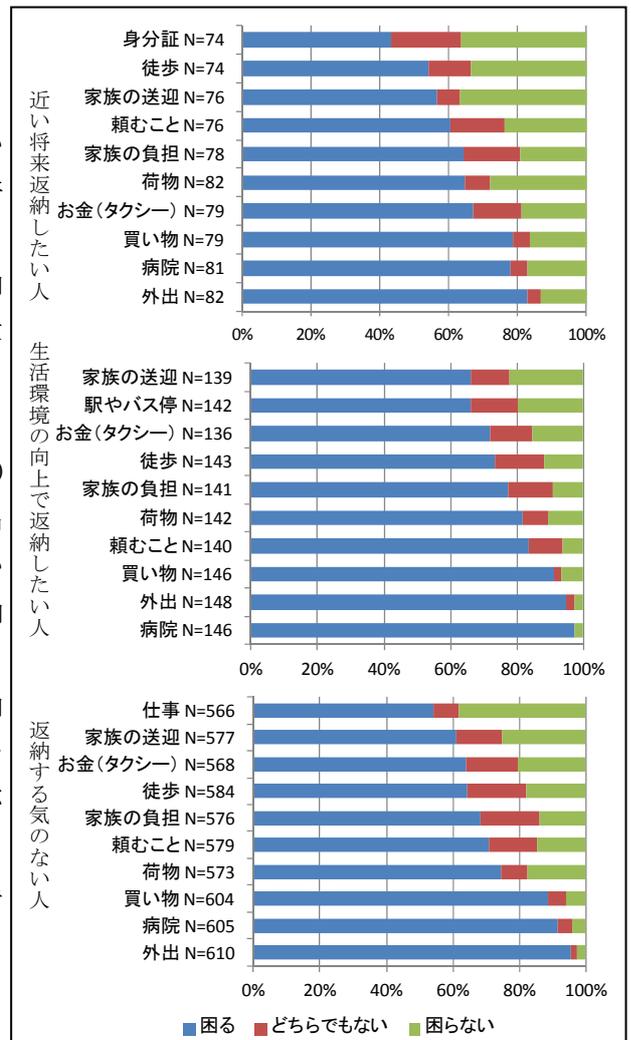


図-3 返納後困ること

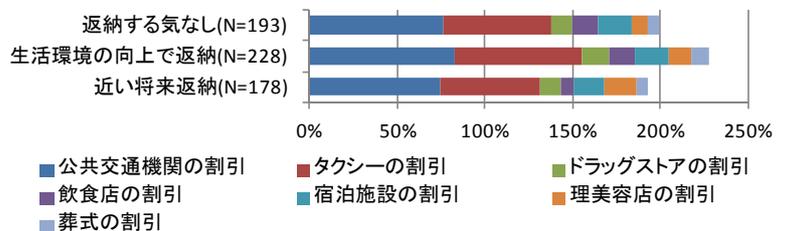


図-4 運転免許返納意識別の求めるサービス